

# 中日ニュース

シネスコ版

高新 22-2 No 36  
新愛媛 22-2 No 189  
中口 22-2 No 202  
22 9 81 花

No. 526

39.2.14

一 国山景瑞原一 (7/1) トッパへ追加

## 一、"奇病"におののく猿島

—茨城

東京から北へおよそ五十キロ。利根川の中流にあるごく平凡な農業地帯——ここ茨城県猿島(さしま)町は一昨年来"奇病"が発生、次々と働きかりの農民が倒れているのです。そのため全町は恐怖と不安におののいているのです。何故このような"奇病"がおこるのでしようか。原因究明にのり出した調査班が東京からかけつけます。現在入院患者九名、自宅療養患者は五十名と推計。その共通している病状は肝臓障害といわれています。古くからこの土地にひそむ人々の生活は、農業が中心で、一戸当り平均年収三十万円程度、しかし最近ビニール・ハウスによる野菜の早期栽培、即ち共同多角経営に切りかえ、いっきに二倍の増収をはかるようになったのです。

そうした半面労働力は極端に減少し青年は東京へと去って行きます。従って農業改善と労働力の不足が町に残った中年以上の農民の過重は仕事を課し、やがて疲労を累積していったのではないかといわれています。こうした中でいち早く日本医大では調査診療班を現地に送り、連日寒風をぬって農民の採血検査や予防治療を行っているので、たまりかねた地元では、今日も"奇病"対策協議会が開かれました。だがここにも直接彼らの生活に足を入れようとしないう行政当局。一日も早く当局の抜本的な対策がのぞまなければ、町全体が灰色の恐怖から救われないのです。

## 一、現在に生きる日本のストラディバリウス

—長野県中野

「ストラディバリウス」それはイタリアの古いヴァイオリンの名器である。北イタリアにおよそ似た気候風土にある雪深い信州中野の片田舎。ここにりんご園を営む小沢さんがいる。彼はこの地方には名を知られたヴァイオリン造り。器用な手先を生かして、この人のみの独特な工法と自らあみ出した塗料で「小沢ヴァイオリン」の研究にいそしみ早や三十数年の月日を費してきた。彼のヴァイオリンは、まだその成果をみていないが、彼の大きな意欲は必ずや実るであろう。彼のヴァイオリンは全て、名人ストラディバリウスとアマテイなど、名器を範とするだけに原材の選択から切り出してみな自分の手になるものばかり工材、セツ道具も自ら鍛冶を打ち作り出したものなのです。

最も重要な裏ブタ、表ブタの隆起も高音低音をかもし出すため繊細な神経と指先を要求されるだけに精神統一のため深夜作業となる。こうして二百十二ちよう目が完成、家族の祝福の中に産声を上げました。今日は町の音楽家達がメンバーのオーケストラの定期リハーサル。

商店の若旦那、トタン屋さん、サラリーマンなど皆腕の立つ人ばかり。この弦楽器のうち四つまでが「小沢ヴァイオリン」。地元愛好家に見守られて日本の名器、更に世界の名器を目指すヴァイオリン小沢は、今日も情熱をそそいでいるのです。

6/9 KP

32/

298